

# 供給ショックが招く物価上昇

企業のコストを引き上げるような物価上昇の流れが続いている。石油や小麦などの一次産品の価格はもちろん、半導体などの工業製品も品不足から価格高騰が続いている。サービスの分野でも輸送費や建設費などが高騰を続けている。この価格高騰は当分続くのか、それとも一時的な現象で終わるのか。どちらの展開になるのかは、企業の業績見通しにも大きな影響を及ぼすだろう。



## 伊藤元重の エコノウオッチ

復や世界一周で35日から70日程度をかけて移動するようだが、途中でストライキや港の混雑などで停滞すると、一定の期間に予定していた物流の供給量は減少してしまう。供給の減少分を取り戻すには、船の追加投入が必要になるが、船に余分がない限り不可能である。物流は血流のようなものであり、それが途中で滞ることは、血栓で血流が止まるようなものだという。コンテナ輸送に限らず、すべての経済循環は血流と同じだ。よく使われる別の比喩を使えば、物やサービスの供給は水道のようなも

# ロシアの侵攻で長期化も

のであり、順調に生産↓流通↓消費の流れが続くことが前提となる。それがどこかで滞ってしまうと、需給バランスが崩れることになり、そして一旦崩れた状態を元に戻すには時間がかかる。

今、世界で起きているサプライチェーン（供給網）の混乱や価格高騰の動きは、まさにこの需給のバランスが崩れた状態が続いているということだ。コロナ禍からのリバウンドで需要が急増し、それに供給が対応できずにあちこちで水道の目詰まりが起きている。こうした状況を是正して、需要と供給がバランスするような状況にもっていくことは簡単ではない。

特に石油や食料あるいは海上輸送サービスなど、供給量を緊急対応的に大きく増加させることが難しい分野では、需要に供給が追いつかない状況が長く続くことになる。物価上昇の圧力がすぐには解消しないと考へざるをえないのは、こうした供給調整の難しさにある。

こうした中でロシアによるウクライナへの攻撃が始まった。石油や天然ガスなどで供給面でさらなる混乱が続くことが予想される。短期間での解消はますます困難になる。石油や天然ガスの高値が続けば、一般物価の上昇も続くことになるだろう。

厄介なのは、サプライサイドから生まれたインフレを、金融政策などのデマンドサイドからの政策で抑え込むことが難しいことだ。それでもインフレが激しくなれば、中央銀行は金融引き締めを転じざるをえないだろうが、それで金利が上昇を続ければ経済への影響も大きい。

戦争で石油価格が高騰して深刻なインフレにつながったのは1973年のことであったが、今回もロシアによって仕掛けられた戦争と、西側による強力な経済制裁で、石油や天然ガスの価格が高騰を続けている。類似点は気になるところだ。

（学習院大学国際社会科学部教授）

\*この記事・写真は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。